第Ⅳ部門　　和歌・俳句に見る風景の研究　～湖国近江を対象とする～

立命館大学理工学部　正会員　笹谷　康之
立命館大学院理工学研究科　学生員　卯田　宗平
立命館大学理工学部　学生員　○新堀　浩司

1.　背景と目的

景物・季節・時刻といった移ろいに関する研究は、僅かではあるが行われてきた。小林氏[1]や篠崎氏[2]らが研究を行ってきたが、歌枕・俳枕といった地名と、どう関連しているかということが重要である。

そこで本研究では、近江における地物・景物が読まれている和歌・俳句等をテクストに、季節や天象等の「歳時記的要素」と地名という視点から着目し、以下の３点を明らかにすることを目的とする。

① 地域別の卓越する景観構成要素及び歳時記的要素を明らかにする。

② 地域別の風景の変遷及びその要因を明らかにする。

③ 琵琶湖に対する意味付けを明らかにする。

2.　用語の定義と分析資料

本研究における最大の焦点は歳時記的要素である。「歳時記的要素」とは風景の中で時に支配される要素であり、本研究では以下のように定義し分析した。

時間）…朝、昼、夕方、夜の４種類に分類する。

季節）…季節の分類は春・夏・秋・冬の四季、「新年」、「不明」の６種類に分類する。

気象・その他の歳時記的要素について）…手を加えずそのまま表記する事とする。

地域分類について）…近江を湖東、湖西、湖南、湖北、甲賀・信楽の５地域に分類する。

時代分類について）…古代・中世、近世、近現代と分類するものとする。

本研究で用いた分析資料は以下の通りである。

・山本　健吉監修（1989）　「大歳時記　歌枕」　集英社

・桂　信子（1993）　「近畿ふるさと大歳時記」　角川書店

その中で詠われていた歌の地域分類は　**（表－1）**に示す。

表－1　分析資料の地域別歌数

地域＼時代	古代・中世	近世	近現代	合計
湖東	72	52	342	466
湖西	27	20	127	174
湖南	105	148	370	623
湖北	22	27	330	379
甲賀・信楽	6	12	41	59
合計	232	259	1210	1701
琵琶湖	54	31	173	258

（琵琶湖は他の地域と重複する場合あり）

この中で特に湖北における歌数が飛躍的に増えている。これは琵琶湖八景の選定、自然地物の価値の再評価等が要因と考えられる。

3.　風景のうつりかわり

a）代表的風景の変遷

各地域の代表的風景の変遷を明らかにした。**(表 - 2)**

表 - 2　代表的風景の変遷

地域		古代・中世		近世	近現代	
湖西	地名	万木の森		比良山	安曇川	
	属性	植物		山岳	河川	
	景物	鷺		雪	簗	
	季節	特定不可		冬	夏	
	時刻	昼		昼	昼	
湖南	地名	比叡山		石山	比叡山	
	属性	山岳		建造物	山岳	
	景物	特定不可		月	雪	
	季節	冬		春・秋	冬	
	時刻	昼		夜	昼	
湖北	地名	伊吹山	余呉湖	伊吹山	竹生島	
	属性	山岳	湖沼	山岳	島	
	景物	さしも草	月	雪	緑	雪
	季節	夏	秋	冬	春	冬
	時刻	昼	夜	昼	昼	昼
甲賀・信楽	地名	信楽の外山		石部山	紫香楽宮跡	
	属性	山岳		山岳	史跡	
	景物	雪・霰		特定不可	特定不可	
	季節	春・冬		秋	春	
	時刻	昼		昼	昼	

また湖東における地物の変遷を**表 - 3** に示す。(次頁)

4.　地域別にみる代表的風景のパターン

それぞれの地域において卓越して詠われている地物及びその景物は、以下のように分類された。**(表 - 4)**

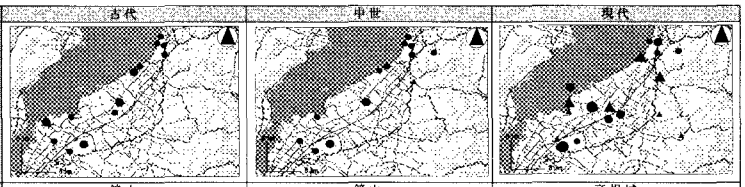
表 - 4　地域別にみる代表的風景のパターン

地域	地名等	属性	景物	季節	時刻
湖東	彦根城	人工物	梅・桜	春	昼
湖西	比良山	山岳	雪	冬	昼
湖南	比叡山	山岳	雨	冬～夏	昼
湖北	伊吹山	山岳	雪	冬	昼
甲賀・信楽	陶狸	人工物	寒空	冬	昼

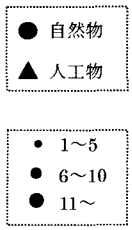
これらの各地域の地物・景物として、主に近江八景・琵琶湖八景がとりあげられていることが明らかになった。

Yasuyuki SASATANI　Syuhei UDA　Kouji SHINHORI

表－3　湖東における地物の変遷



	古代	中世	現代
地物	鏡山	鏡山	彦根城
属性	山岳	山岳	史跡
景物	月	特定不可	花
四季	秋	夏	春
時刻	夜	昼	昼



5.　和歌・俳句の語彙から出現・消失した地物（表－5）

表－5　和歌・俳句の語彙から出現・消失した地物

時代／地域	近世		近現代			
	消失地名	出現地名	消失地名		出現地名	
湖東	野洲川	淡子の水 多賀大社	朝妻港 息長川 鏡山	水茎の岡 老蘇の森 鳥籠山	水郷めぐり 安土セミナリオ 安土城 彦根城 鼓王寺 佐和山 蔵山	永源寺 瑞龍寺 長命寺 百済寺 西明寺 石塔寺
湖西		白髭の鳥居	万木の森		安曇川 海津大崎	
湖南	三津の浜	唐崎の松 浮御堂 草津	野路玉川 黒津 蛍谷 長等山	逢坂の関 矢橋 打出の浜	義仲寺 幻住庵 無名庵	膳所城跡 月心寺 柳丸神社
湖北	塩津山		月出ヶ崎		賤ヶ岳 十一面観音像 長浜八幡宮	小谷城跡 大通寺 向源寺
甲賀・信楽	かれいい山	石部山	横田山		石部駅 紫香楽宮跡	
琵琶湖					琵琶湖大橋	
合計　自然物	4	3	16		6	
合計　人工物	0	4	1		24	

表－5 のうち、出現した地物は、主に八景に関わるものと、歴史性の高い寺社に分ける事ができた。

消失した地物の要因は、主に社会的要因と自然的要因に分けることができた。

①　社会的要因

朝妻や矢橋のように水運の衰退により詠われなくなったもの、打出の浜のように浜辺の護岸・埋め立てにより魅力を失ったもの、廃寺により信仰の対象として見られなくなったかれいい山等が挙げられる。

②　自然的要因

蛍の減少により魅力を失った黒津・蛍谷、山容の変化により読まれなくなった鏡山などがある。

6.　琵琶湖への意味付け

a）　琵琶湖への意味付けの分類

琵琶湖を詠んだ歌の中から、琵琶湖に対して意味付けされているものを、次の３タイプ５種類に分類することができた。

羨望：○　微少なる人間

・　近江なる打出の浜のうち出でつつうらみやせまし人の心を

拾遺和歌集（打出の浜）

○　時の無常

・　楽浪の志賀の唐崎幸くあれど大宮人の舟待ちかねつ

・　楽浪の志賀の大わだ淀むとも昔の人にまたも逢はめやも

柿本　人麻呂（志賀）

○　身の不遇

・　うらやまし志賀の浦わの氷とぢ返らぬ波もまた返りなむ

建礼門院右京大夫（志賀）

試練：○　強き意志

・　恋ひしのぶ人にあふみの海ならばあらき波にもたちまじらまし

建礼門院右京大夫　（琵琶湖）

悲哀：○　絶望の先

・　関山のせきとめられぬ涙こそ近江の海と流れいづらめ

和泉式部（逢坂）

b）　琵琶湖への意味付けの変遷

上記３タイプの歌は、全て『古代・中世』に分類された。古代・中世に詠まれた和歌・短歌は、俳句と異なり言葉に情感がこめられている点と、湖に対する神秘性が喪失した点の二つの理由が考えられる。

7.　結論

①　地域別の卓越する景観構成要素及び歳時記的要素を明らかにした。

②　時代変遷と共に和歌･俳句の語彙から地物が近江八景や琵琶湖八景等の影響や、自然物の価値の再認識という理由で出現し、護岸や埋立等の社会的要因、蛍の減少等の自然的要因により消失したことを明らかにした。

③　琵琶湖に対する意味付けを羨望・試練・悲哀の３タイプに分類した。

引用文献

1)　小林　亨（1993）『移ろいの風景論　五感・ことば・天気』鹿島出版社

2)　篠原　伸　　志摩　邦雄　　小柳　武和（1998）『歳時記的要素に考慮した都市の空間構成に関する研究－「ひたち都市環境写真コンテスト」応募作品と「江戸名所図会」の分析－』都市計画学会学術研究論文集 No.33 p 727- p 732